

校報



水 緒

「知徳の方向 あやまらず 進め」

第 1330 号
(令和2年度 第13号)
洋野町立種市小学校
令和2年7月29日
児童数 227名

8月8日(土)から16日(日)
までは学校は閉庁となります。緊急の連絡の場合は、「マチコミの『お休み連絡』」の機能を使って連絡くださるようお願いしております。よろしくお願いいたします。

「今できることは何か」から 「まだできることはないか」へ

一学期、子ども達に見せてもらったもの

～みなさんには、学校を動かす力があるのです～

あっという間の1学期でした。終業式で次のようなお話をして1学期を振り返りました。

「自分たちでできることを増やそう」と言って始まった1学期でした。1年生は、給食をもりもり食べて元気に生活することができました。2年生は、自分達で種市の探検にも出かけました。3年生は毛筆の学習に挑戦し、4年生は代表委員会に初めて出席して高学年の仲間入りをしました。

みなさんは、「自分達でできること」をコロナの影響でできることが限られる中、「**今できることは何か**」と考えて行動しました。5年生・6年生が中心になった児童会では、「何か目標をもって取り組みたい」とマラソンの取り組みを考えました。他にも、体育員会の外遊びサポーター、ボランティア委員会が呼びかけた中庭の草取り、保健委員会の放送での保健クイズ、図書委員会の読み聞かせ、放送委員会の出来事を募集しての昼の放送、給食委員会の完食に向けての取り組みと、全校の友達を巻き込んでのよい活動が続きました。

また、掃除は少人数で教えに行く活動から縦割り掃除へと移りました。あいさつの取り組みも行われました。『今できること』はそれだけで終わらず、学期末の“縦割り班の仲を深める取り組み”や“児童会ラジオ”まで続けられました。

いろいろな制限があってできないことが多くて取り組みにくい中、みなさんの『今できることは何か』は「**まだできることはないか**」に変わり、学期末のギリギリまで行われたのでした。

こうして、誰かが、「何かをしよう」とか「こうした方がよいのではないか」と働きかけることで、全校のみんなが協力してくれました。

誰かが働きかけると、学校中のみんながよい活動をするために動き出し、学校がどんどんよい方に進むということを見せてもらいました。これが、「学校をよりよくしていること」なのです。**みなさんには、学校をよりよい方に動かす力があるのです。**

2学期も、みんなで、学校をよりよくして行きましょう。2学期も、ますます、たくさんのよいことがあるように、明日からの夏休みは、安全に気をつけて暮らしましょう。

2学期には、1学期にできなかったことができたらいいます。やりたいことがたくさんです。体を休め、元気とやる気をためて、2学期の始業式に、子ども達が元気に登校してくるのを待ちたいと思います。

今日も子ども達が朝、玄関が開くのを待ってました。「早く遊びたいから」と。「通信簿はもらいましたか？」に「はい!」の返事。「どうでした？」と聞くと「・・・」。「(しまった。聞き方を間違えたか!)まあまあでしたか？」と聞き直すと、「はい!」の返事。がんばっていない子はいません。前より成長していない子はいません。みんなががんばった1学期が終わります。

始業式は
8月18日(火)

たとえば、

あるお母さんから教わった話

よその人がうちの子を叱って下さいました。
でも、それは誤解だったとしたら、

どうされるでしょうか。

～地域で子どもを育てるということ～

種市は、街ぐるみで子ども達に目が向いている街だと思います。これからも、子どもたちをみんなで見守って、褒めたり注意したりしながら、「地域みんなで育てる街」が続いて行ってほしいと願います。

とは言え、簡単に「よその子に注意」といっても、気を使うことだと思います。子どものこととは言え、遠慮があります。テレビドラマなどでは、「よその子を叱るとその親から文句が来る」などというのを目にします。そうではなくて、

・注意してもらったら「よく叱ってくれた」とお礼を言うことにしたい。

・褒められたら、「ありがとうございます。」のついでに、「でも、いたずらを見かけたら、どうぞ叱って下さいね。」とお願いすることにしたい。

と思うのですがいかがでしょうか。もう、なさっているかもしれません。「これからも続けていきませんか」というお誘いです。さらに！

もし何かの勘違いで自分の子どもが叱られたとしたら、……。 どうされるでしょうか。

そこで、思い出すのが、ずっと前に勤めた学校であるお母さんが教わった話です。

「文句なんか言ったために、次に本当に悪さをしたときに注意してもらえなくなったらもったいない。」とおっしゃったのです。

「勘違いとはいえ、“うちの子のため”を考慮して下さったのだから、子どもにも、『あのお婆さんは、勘違いだったかもしれないけれど、お前のことを考慮して下さっているのだよ。』とか『自分の子のように叱ってくれるなんてありがたい。』と教えたい。」とおっしゃいました。

簡単ではないかもしれませんが、親としての立派な心掛けだと感じました。それを見ていた子どもも、**自分もそんな親のようになろう**とってくれたらいいなあと思いました。そうやって、「みんなで育てる地域」が受け継がれていくのだらうと思いました。

夏休みは、子ども達は地域にいます。子どものためには、“たくさんの目”で見えていく方がいいです。みんなで見守り声をかけ合い育てていくことをお願いいたします。

一番の安全対策は

何度も繰り返して言うこと だそうです

朝、子どもが出かけるとき、または、おうちの方が先に出かけなければならないとき、「気を付けていくのだよ。」「川には近づかないのだよ。」などと毎回お話されるのではないのでしょうか。大人の方は「口を酸っぱくして」言うのですし、子どもには「昨日も聞いたよ。」と言われるかもしれません。この、「口を酸っぱく」や「昨日も聞いた」がよいのだそうです。もっと言うと、「耳にたこができるくらい」しつこく毎日言うことが、安全のために最も効き目があるのだそうです。

みんなで元気そろって、「実りの2学期」に向かうことができるよう、おうちでの安全指導をよろしくお願いいたします。